

中学部 数学科 学習指導案

日 時：令和4年1月29日（土）
10：30～11：20

場 所：2年生教室

対 象：Cグループ 4名

授業者：神崎 稔正 藤並 寛子

1 題材名 『陣取り合戦～附特冬の陣2022～』で、位ごとに数を見て、10や100のまとまりを移動させ、繰り上がりのある加法や繰り下がりのある減法を計算しよう

2 題材設定の立場

(1) 題材について

生徒観	<p>本グループは2年生3名（H・F・G）、3年生1名（K）の計4名の生徒が在籍している。活動や課題の仕方がわかったり、取組を認められたりすることで、意欲的に課題に取り組むことができる一方で、自分の考えを他者に伝える場面で黙ったり、つまづきに不安な様子を見せたりする生徒たちである。生徒の思考過程を可視化した教具を用いたり、ことば（指さしやタブレット端末操作を含む）で表現する場面を設けたりすると、つまづきに対して自分で気づいて解決することができる。日常生活の場面や他の教科・領域などで、これまでに学習した内容を活用して解決できる場面に直面すると、「わからない」などと教師に伝えたり、活用できること自体に気づかなかつたりする生徒たちである。</p>
系統観	<p>本グループは中学部1段階の数と計算の領域を学習する。</p> <div style="text-align: center;">  <pre> graph LR A["・数の合成分解 ・10の補数"] --> B["・2位数の構成 ・位の理解"] B --> C["・2位数までの加法 (繰り上がり含む)"] C --> D["・2位数までの減法 (繰り下がり含む)"] </pre> </div> <p>今年度は数量の基礎に関する学習から加法及び減法の学習を行い、前題材までに2位数の構成の理解や、一の位と十の位がそれぞれ1や10のまとまりの数を意味していることを学習した。さらに、これらを活用し、数を位ごとに見て、繰り上がりのある加法の和（99まで）や2位数同士の繰り下がりのない減法の差を、半具体物を操作して求めたり、2位数（19まで）と1位数の繰り下がりのある減法の差を、2位数を10と端数に分けて求めたりすることができるようになってきている。そこで、本題材では、2位数及び3位数の加法の定着や2位数同士や3位数を含む繰り下がりのある減法の計算ができるようになってほしい。</p>
指導観	<p>本題材では、数学科で学習してきた内容が生活場面で生きることを知り、「あ！あのときの！」と気づいて、課題を解決できるようになってほしい。そこで、題材を通して、作業学習の苗の数などを取り入れた文章題を発展場面で扱うことにした。また、題材の前半に、繰り上がりや繰り下がりの意味（2位数の範囲で計算するとき、被加減数において一の位と十の位を移動するのは10のまとまり1つだけであること）を理解することや、位ごとに見て計算することを正確に実行できるようにする。そのために、位を分けたシートの上で半具体物や位ごとに数のまとまりなどを示す記号（⑩や①、○）を動かしたり、筆算の計算をしたりする。さらに、計算の考え方を友だちや教師に伝える（指さしやタブレット端末操作を含む）活動を取り入れることで理解を深め、定着を図りたい。題材の後半では、3位数や空位を含む課題を提示して、これまで学習した計算の考え方を生かして取り組む課題を設定する。</p>
教材観	<p>本グループには都道府県に興味のある生徒が多いことや、くじ引きを用いた題材で意欲的に取り組む姿が見られたことから、本題材では、都道府県名を記載したくじを引き、割り当てられた問題に回答するとその都道府県を陣地とすることができる仕組みの教材を扱う。また、二人一組で取り組むことで友だちが課題に向かう姿を見たり、チーム内で担う陣取りの役割の重要性を感じたりして、課題に意欲的に取り組むことができるようになる。式を見て計算する問題やイラスト入りの文章を読み立式して計算する問題、計算の過程を説明する問題などの問題配列で進め、計算する力を養うとともに、自分の考え方を整理して言語化する力の育成や日常生活で活用することができるという気づきを得ることができるようにしたい。</p>

(2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
H	<p>【一般的な実態】 CA：14 ・学習場でKの言動を模倣したり、様子を伺ったりすることが多い。</p> <p>【指導方法に関する実態】 ・『その位シート』などの思考過程を視覚化する教具を用いると、自分で操作して答えを求めたり、計算の過程を伝えたりする。 <学びに向かう力・人間性等> ・仕方や考え方が定着すると、自分から進んで、最後まで課題に取り組むことができる。</p>

H	<p>【本題材に関する実態】 <知識及び技能> ・繰り上がりのある1位数同士の加法を計算するとき、数を分解して10をつくり、答えを求める。 ・99までの繰り上がりのある加法では、『その位シート』と半具体物を使って答えを求めることができる。 <思考力・判断力・表現力等> ・「なぜ、足し算を使いましたか」と問うと、問題文の中から“もらいました”などのキーワードを答える。 ・教師が「はじめに」など順序を表すことばを伝えると、計算の過程を説明することができる。</p>
	<p>【指導の方向】 本題材では、半具体物を使って習得してきた数量の操作を数のまとまりなどを示す⑩や①、○の記号でできるようにしてほしい。思考過程を視覚化すると学び取りやすい実態のため、題材前半は教師と一緒に『その位シート』に⑩や①、○を書き込み、各位の数や繰り上がりをイメージできるようにする。次第に支援を減らし、2位数の各位の数や繰り上がりの有無を自分で判断して、答えを求めることができるようにする。題材後半は1位数や空位の問題も同じ考え方で取り組むことができると考える。</p>
F	<p>【一般的な実態】 CA:14 場面緘黙症 ・タブレット端末の音声読み上げアプリや黒板への記入、教師の代弁などの手段を用いて発表を行う。 ・間違えたり、つまずいたりすると動きが止まったり、次の課題に向かうことを躊躇したりする。</p>
	<p>【指導方法に関わる実態】 ・教師が次の行動を伝えたり、課題に注意を向けられるようにことばをかけたりすると行動に移りやすい。 <学びに向かう力・人間性等> ・黒板の表示や教師の説明を受け、本時の学習内容に取り組む。</p> <p>【本題材に関する実態】 <知識及び技能> ・2位数までの加法（繰り上がりを含む）を『その位シート』と半具体物を使って答えを求める。 ・2位数までの加法（繰り上がりを含む）を筆算で計算するとき、1位数を十の位に記入したり、一の位でできた10のまとまりを繰り上げ忘れしたりする。 <思考力・判断力・表現力等> ・教師に計算の順序や繰り上がりの有無、加法の判断基準を問われると、指さしやうなずきで答える。</p>
K	<p>【一般的な実態】 CA:15 ・課題に向かうことや授業場所に行くことを拒むことがあるが、課題量の調節や場所の変更をすると取り組める。</p> <p>【指導方法に関わる実態】 ・半具体物を操作したり、記号・数字で示したりすることで数の動きや計算の仕方をイメージでき、計算の仕方や考え方も定着しやすい。 <学びに向かう力・人間性等> ・授業のはじめに課題量を示すことで、見通しをもち、最後まで取り組むことができる。</p> <p>【本題材に関する実態】 <知識及び技能> ・2位数（19まで）－1位数の減法を暗算で計算することができる。 ・20を超える数や繰り下がりのある減法を計算するとき動きが止まり、頭を抱えることが多い。 <思考力・判断力・表現力等> ・文章の中のキーワードから数の増減を考え、加法か減法かを判断し、立式して計算することができる。 ・教師が「どの位から計算しましたか」などと問いかけると、自分の計算の仕方を説明する。</p>
	<p>【指導の方向】 本題材では、引かれる数と引く数の同じ位を比較して引く数の方が大きいときに10や100のまとまりを1つ繰り下げて計算することがわかり、位ごとに数を見ながら正確に計算できるようになってほしい。そこで、繰り下がりの仕組みのイメージをもつことができるように半具体物を『その位シート』の上で操作し、その後、数字で計算できるように『計算ジャー』を使用する。また、繰り下がりの考え方が定着した後は、1位数や空位を含む問題や3位数の問題に取り組む場面を設定する。</p>

G	<p>【一般的な実態】 CA : 14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組む場面や答え、考えを発表する場面で、「間違っていますか」と教師に尋ねることがある。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の計算の過程や答えを伝えることで、自分の考えを整理したり、誤答に気づいたりすることができる。 ・課題に取り組む姿を認めることで、自信をもって課題に取り組むことができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から追加の課題を教師に依頼したり、友だちに考え方を質問したりする。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2位数(19まで) - 1位数の繰り下がりのある減法や2位数同士の繰り下がりのない減法を計算できる。 ・2位数同士の繰り下がりのある減法で、繰り下げを忘れて、引く数から引かれる数を引いたりする。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中のキーワードから数の増減を考え、加法か減法かを判断し、立式して計算する。 ・自分の思考過程を教師に伝えることができるが、繰り下がりのある問題では「わからない」と伝える。
	<p>【指導の方向】</p> <p>本題材では引かれる数と引く数の同じ位を比較して引く数が大きいとき、上位から10や100などのまとまりを1つ繰り下げることで計算できることに気づいてほしい。そこで、『その位シート』の上で半具体物进行操作し、繰り下がりの仕組みをイメージしやすくする。その後、数字で計算できるように『計算ジャー』を使用する。さらに、繰り下がりの考え方が定着した後は、1位数や空位、3位数の問題を設定する。</p>
	<p>3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している</p>

		題材目標	学習指導要領の扱う内容
H	知	2位数同士の加法を計算するとき、一の位同士を足した和が10以上になると一の位から十の位に10のまとまりが1つ繰り上がることがわかり、十の位の10のまとまりや一の位の1を『その位シート』に○で書き表し各位の○の数を数え答えを記数する	中学部 1段階 A 数と計算 【知識及び技能】 イ (ア) ㉞ 2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ (イ) ㉞ 数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見出すとともに、日常生活で生かすこと。 【学びに向かう力・人間性等】 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよきに基づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	思	2位数までの加法を計算するとき、足される数と足す数の各位の数を考え、繰り上がりの有無を判断して『その位シート』に○を記入して計算したり、教師の計算の順序に関することばかけを聞き、自分の思考過程を教師に伝えたりする	
F	知	3位数同士の繰り上がりのない加法を計算するとき、2位数までの加法と同じ仕方や考え方で計算することがわかり、3位数の各位の数を『計算ジャー』の各位に記入して、一の位から順に足して答えを記数する	
	思	3位数までの加法を計算するとき、足される数と足す数の各位の数を考えて、繰り上がりの有無を判断して一の位から順に計算して答えを記数する	
K	知	2位数までの繰り下がりのある減法を計算するとき、引かれる数と引く数の同じ位を比較し引く数が大きい場合は上位から1を繰り下げると計算できることがわかり、筆算にして一の位から順に計算して答えを記数する	
	思	3位数までの減法を計算するとき、引かれる数と引く数の各位の数を考え、繰り下がりの有無やどの位から繰り下がるかを判断して計算したり、自分の思考過程をタブレット端末の選択肢から選んだりして教師に伝える	
G	知	2位数までの繰り下がりのある減法を計算するとき、引かれる数と引く数の同じ位を比較し引く数が大きい場合は上位から1を繰り下げると計算できることがわかり、筆算にして一の位から順に計算して答えを記数する	
	思	3位数までの減法を計算するとき、引かれる数と引く数の各位の数を考え、繰り下がりの有無や、どの位から繰り下がるかを判断して計算したり、自分の思考過程を教師に伝えたりする	
全	学	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよきに基づき、そのことを生活や学習に活用しようとしている	

4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載

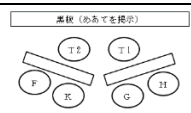

5 本時案（全9時間の5時間目）

(1) 題目 『陣取り合戦～附特冬の陣 2022～』で、2位数を位やまとまりとして見て、繰り上がりのある加法や繰り下がりのある減法の問題を計算したり、計算過程を教師に伝えたりしよう

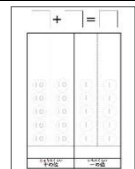



(2) 本時のめあてと評価規準

観点別の本時のめあて		評価規準
H	知 2位数同士の繰り上がりのある加法（和が99まで）を計算するとき、十の位に⑩が1つ繰り上がることがわかり、各位の⑩と①の数を『その位シート』に記入し、横式に答えを記数する	2、3問目を両方正解する（全3問）
	思 2位数同士の加法（和が99まで）を計算するとき、足される数と足す数の各位の数を考えて、繰り上りの有無を判断して繰り上がりがある場合は⑩を1つ繰り上げて答えを求める	『その位シート』の適切な位置に⑩や①を記入したり、10のまとまりを十の位に繰り上げたりして各位の⑩や①の数を数えて答えを求める
F	知 1位数+2位数の加法（和が99まで）を計算するとき、1位数は1のあつまりを表していることがわかり、1位数を『計算ジャー』の一の位に記入して、一の位から順に足して答えを記数する	2～4問目で2問正解する（全4問）
	思 2位数までの加法を計算するとき、足される数と足す数の各位の数を考え、繰り上りの有無を判断して、一の位から順に計算して答えを求めようとする	『計算ジャー』の各位に足される数と足す数を記入したり、10や100のまとまりを繰り上げたりしながら答えを求める
K・G	知 2位数同士の減法（差が二桁）を筆算で計算するとき、位ごとに計算することがわかり、位をそろえて筆算にし、一の位から順に計算して答えを求める	(K) 2～5問目で3問正解する（全5問） (G) 2～8問目で6問正解する（全8問）
	思 教師に思考過程を説明するとき、引かれる数と引く数の各位の数の大小を考え、繰り下りの有無を判断して、思考過程を教師に伝えようとする	(K) タブレット端末に示された計算の順序や繰り下りの有無の判断などに関する問いに対して選択肢から選び、伝える。(G) 教師に計算の順序や繰り下りの有無の判断などを伝える
全学	A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価をする	

(3) 場面設定と準備物

場面設定	意図と工夫点
展開場面 	本時でがんばることがわかるように黒板にめあてを提示する。HはKの様子を伺うことがあるため、座席を離している。
発展場面 	進んで課題や活動に取り組むことができるように、チーム同士が向かい合うように配置したり、課題の進捗状況が一目でわかるように問題や日本地図を前方に置いたりした。

準備物

			
教具名 その位シート（Hが使用） 意図と用途 ①が10個集まると十の位に10のまとまりが1繰り上がることを可視化できるようにするため位を分けたシートで上段に⑩や①を記入して中断の枠に各位の合計の数を記入する。	教具名 計算ジャー（Fが使用） 意図と用途 繰り上がりを忘れないために、位ごとに可視化し数を記入する欄を設けたシート。	教具名 まとめプリント 意図と用途 知識及び技能を得た場面や気づきがあった場面でわかったことを記入したり、教師が書いた付箋をはったりする。毎時間ファイリングして学習の振り返りや課題解決の場面で使用する。	教具名 タブレット端末（FとKが使用） 意図と用途 計算過程を教師に説明するとき、タブレット端末に示してある問いを選択肢から選んで使う。

(4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

		一次		二次			三次 (Hは8より)				
時数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
H	知技	場面 2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりがない加法を計算するとき	2位数+1 位数の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数同士の加法を計算するとき	/		
	できた姿	10 のまとまりのブロックを十の位に移動させて、『計算ジャー』の各位の答えの枠に答えを記数する	10 のまとまりのブロックを十の位に移動させて、ブロックの数を数えて答えを記数する	左項と右項分の⑩と①を『その位シート』に正しく記入して、各位の⑩と①の数を数えて答えを記数する	教師が①を10個1つの丸で囲み、十の位に向け矢印を書き、Hが⑩と書く。各位の⑩と①の数を『その位シート』に記入する	10個の①を1つの丸で囲み、十の位に向け矢印を書き、⑩と書く。各位の⑩と①の数を『その位シート』に記入する	左項と右項分の○を『その位シート』に正しく記入して答えを記数する	十の位の10のまとまりや一の位の1を『その位シート』に○で書き表し各位の○の数を数えて答えを記数する			
H	思判表	具体的状況 2位数同士の加法を計算するとき	計算過程や考え方を教師に伝えるとき	2位数同士の繰り上がりがない加法を計算するとき	2位数+1 位数の加法を計算するとき	2位数同士の加法を計算するとき			2位数までの加法を計算するとき		
	表出像	左項と右項の各位の数を考え						左項と右項の各位の数を考えて繰り上がりの有無を判断して『その位シート』の各位に○を正しく記入して			
F	知技	場面 2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりがない加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	1 位数+2 位数の加法を計算するとき (繰り上がり含む)	3位数同士の繰り上がりがない加法を計算するとき	/				
	できた姿	10 のまとまりのブロックを十の位に移動させて、ブロックの数を数え、『計算ジャー』に答えを記数する	左項と右項の各位の数を『計算ジャー』に正しく記入して答えを求め	『計算ジャー』の各位に数を記入して、一の位から順に足して答えを記数する	1 位数を『計算ジャー』の一の位に記入して、一の位から順に足して答えを記数する	3位数の各位の数を『計算ジャー』の各位に記入して、一の位から順に足して答えを記数する					
F	思判表	具体的状況 2位数同士の加法を計算するとき	計算過程や考え方を教師に伝えるとき	2位数同士の繰り上がりがない加法を計算するとき	2位数同士の繰り上がりのある加法を計算するとき	2位数まで数の加法を計算するとき	3位数+1・2位数や1・2位数+3位数の繰り上がりがない加法を計算するとき	3位数までの繰り上がりのある (一の位から十の位) の加法を計算するとき	3位数までの繰り上がりのある加法を計算するとき (十の位から百の位)	3位数までの加法を計算するとき	
	表出像	左項と右項の各位の数を考え									
K・G	知技	場面 2位数 (19 まで) -1 位数、2位数同士の繰り下がりがない減法を計算するとき	2位数の一の位同士を比較して、引かれる数よりも引く数の方が大きいとき	2位数同士の繰り下がりのある減法をブロックを操作しながら計算するとき	2位数同士の繰り下がりのある減法を速く、正確に計算する方法を考えると	2位数同士の減法を計算するとき	2位数までの繰り下がりのある減法を計算するとき	/			
	できた姿	2位数を 10 のまとまりと端数に分けて計算したり、位ごとに数を見て計算したりする	引かれる数の 10 のまとまりから引く数だけのブロックを取り、ブロックの数を数え、答えを記数する	『その位シート』上で一の位へ10 のまとまりを1つ移動させて引く数を引き、答えを記数する	『計算ジャー』の各位に数を書き、引かれる数の十の位の数を1減らし、一の位へ1を繰り下げて答えを記数する	式を見て、位をそろえて筆算にして一の位から順に計算して答えを求め	筆算にして、一の位から順に計算して答えを記数する				
K・G	思判表	具体的状況 計算過程を説明するとき	2位数同士の減法を計算するとき	教師に計算過程を説明するとき	2位数同士の減法を計算するとき	2位数同士の減法を計算して教師に思考過程を説明するとき	2位数-1位数や空位を含む減法を計算するとき	3位数の繰り下がりのある減法を計算するとき	3位数までの減法を計算するとき		
	表出像	引かれる数と引く数の各位の数を考えて、									
主体的な姿	粘り強さ 学習調整	○教師の支援を受けながら自分から進んで課題に取り組む (F・K) ○課題を終えたこと伝えたり、わからないことを質問したりする ○教師の提示した個々のめあてを見て本時の到達像がわかる									
		○したことやわかったことを『まとめプリント』に記入する (H・F・K) ○わからないことがあったとき、これまでの課題や『まとめプリント』を参照して課題を解決しようとする (G)									

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ				
	H	F	K	G	
<p>1. 本時の学習内容やめあてを知り、見通しや意欲をもつ。</p> <p>2. 位を見たり、10 のまとまりを動かしたりして計算問題を解く。</p>	<p>○本時の学習に見通しをもつことができるように、本時の流れを黒板に示して伝える。</p> <p>○前時までの学習内容やわかったことを振り返るために、『まとめプリント』や取り組んだ課題のプリントを見て、発表することを知らせる。</p> <p>○個々のがんばることがわかるように、黒板に示した本時のめあてを読み上げることが知らせる（Fについては教師が読み上げる）。</p> <p>○学習への目的や意欲をもてるように、トレーニング問題で計算の仕方や考え方がわかると、発展場面や日常生活で活用できることを伝える。</p>	<p>○それぞれの課題に取り組めるように、トレーニング問題に取り組むように伝える。</p> <p>○わかったことや気づいたことを自分のことばでまとめることができるように、『まとめプリント』のわかったことの欄に記入することを知らせたり、教師が問いかけながらまとめて、付箋に記入して渡したりする。</p> <p>・『その位シート』に記入する各位の数を間違えた場合には、記入する各位の数がわかるように、左項と右項のそれぞれの各位の数について確かめるように伝える。</p> <p>・『その位シート』の一の位の枠に左項と右項の分の①を記入し、和一の位のが10以上になる場面で、10のまとまりにして繰り上げ忘れた場合には、10のまとまりが1つ繰り上がることに気づくように、これまでに繰り上がりを学習した際の『まとめプリント』を提示し、どのように考え、計算したかを問う。</p> <p>・一の位の和が0や10になる場面で『その位シート』の答えの欄に記入する手が止まったり、一の位の欄が空白で解き終えたりした場合には、空位には0を書くことに気づくように、一の位に①の有無を問いかけた後、位に何も無い場合にはどのように表せばよいかを問いかける。</p> <p>○自分のめあてや計算の仕方、考え方を再確認するため、トレーニング問題で取り組んだ計算の仕方や考え方、取り組む上で意識したことを友だちや教師に伝えることを知らせる。</p> <p>○自信をもって発展場面の学習に取り組むことができるようにするために、計算の仕方や考え方を発表したり、めあてを意識して取り組んだりすることができたことやまとめができていたことを認める。</p> <p>○『陣取り合戦』に意欲的に取り組むことができるようにするために、トレーニング問題で学習したことを使うとゲームに勝てることを伝える。</p>	<p>・1位数を『計算ジャー』の十の位の欄に書いた場合には、1位数は一の位に記入することに気づくように、2位数は10のまとまりと1のあつまりに分けられることを伝え、1位数は10のまとまりと1のあつまりのどちらを表しているか問う。</p> <p>・一の位同士を足して10以上のとき、十の位に10のまとまりを1つ繰り上げ忘れた場合には、繰り上がりの1を足し忘れていることに気づくように、足した答えが足される数より小さい数になっていることを伝える。また必要に応じて繰り上がりの有無を再度判断するようにことばをかける。併せて、繰り上がりがあると判断したときに、『計算ジャー』の十の位の上に欄に1を記入すると間違いが少なくなることを伝える。</p>	<p>・十の位から一の位に10のまとまりを1つ繰り下げた後、引かれる数の十の位の数を1減らし忘れて計算した場合には、十の位から一の位へ繰り下げると、十の位の10のまとまりが1つ減る（数が1減る）ことに気づくように、これまでのまとめプリントの繰り下がりに関するページを示す。併せて、十の位の上の欄に繰り下がり後の数を記入すると計算間違いが少なくなることを伝える。</p> <p>・一の位を比較して引かれる数の方が小さい問題を計算するとき、引く数から引かれる数を引いた場合には、計算の仕方がわかるように、これまで取り組んだプリントを示して、引かれる数と引く数の関係を確認、再度計算するように伝える。</p>	<p>・十の位から一の位に10のまとまりを1つ繰り下げた後、引かれる数の十の位の数を1減らし忘れて計算した場合には、十の位から一の位へ繰り下げると、十の位の10のまとまりが1つ減る（数が1減る）ことに気づくように、まとめプリントのどのページを見るとよいかを問いかける。</p> <p>・一の位を比較して引かれる数の方が小さい問題を計算するとき、引く数から引かれる数を引いた場合には、式の示す内容がわかるように、横式を指さして引かれる数と引く数の関係を確認、計算の仕方を思い出し、再度計算するように伝える。</p>
<p>3. 『陣取り合戦』で問題を解き、教師に計算過程や考え方を説明する。</p>	<p>○展開場面で習得した計算の仕方や考え方、教具の使い方を生かすことができるように『陣取り合戦』で計算問題や文章問題、説明問題を出題することや、まとめプリントが手がかりとなることを伝える。</p> <p>○本時の学習が定着しているかを確認するために、問題に取り組むことを伝えた後、答え合わせの場所で様子を見る。</p> <p>・動きが止まったり、課題を取りに行くことを迷ったりした場合には、課題に取り組むことができるように、チームの友だちと一緒に取り組むように伝えたり、教師と一緒に課題の受け取りに行ったりする。</p> <p>・口頭での説明場面で止まった場合には、思考過程を順序に沿って振り返ることができるように、「まず」「次に」など順序に関することばをかけ、これまでの学習やトレーニング問題でまとめた『まとめプリント』を参照することを知らせる。</p> <p>○学習したことの達成感を味わえるようにするために、『陣取り合戦』で増えた陣地の数を示し、陣地の数が増えたのは、展開場面の学習を活かして課題に取り組んだ成果であることを伝えて、認める。</p> <p>○次回の『陣取り合戦』でも学んだことを生かして取り組めるように、トレーニング問題での学習を生かして答えを求めようとしたり、計算の仕方や考え方を教師に伝えようとしたりしたことを認める。</p>	<p>・iPadでの説明場面で正答と異なる答えを選んだ場合には、思考過程を順序に沿って振り返ることができるようにするために、これまでの学習をまとめた『まとめプリント』で計算の順序などを確かめた後、再度iPadでの説明に取り組むように伝える。</p>	<p>・口頭での説明場面で止まった場合には、思考過程を順序に沿って振り返ることができるようにするために、「まず」「次に」など順序に関することばをかけた後、これまでの学習やトレーニング問題でまとめた『まとめプリント』を参照するように伝えたりする。</p>		
<p>4. 本時の学習を振り返り、わかったことをまとめる。</p>	<p>○自らのめあての達成度を確認したり、学習内容を深めたりするために、したことやわかったことをまとめプリントに記入することを知らせる（Fは教師が付箋に記入したものを貼る）。</p> <p>○本時の学習でわかったことを共有するために、授業中に自分が『まとめプリント』にまとめたことを発表することを知らせる。</p> <p>○学習したことの達成感を味わい、次時への学習の意欲をもてるように、計算の仕方や考え方を発表したり、めあてを意識して取り組んだりすることができたこと、まとめができていたことを認める。</p> <p>○次時への見通しをもつことができるように、次時の学習内容や個々のめあてを伝えて本時を終える。</p>				